

科学英語Ⅱを受けての感想文

科学英語Ⅱ 感想

「科学英語Ⅱ」の授業の最後に設けられた模擬発表会での発表を終えて思ったことは、質問への対応が全くできず、非常に悔しい思いをしたということです。発表そのものについては、何度も繰り返して練習した成果があり、本番でも伝えたい内容をスラスラと話すことができました。しかし発表後の質疑応答では、まず質問者の英語がわからず質問の内容が理解できなかったこと、さらにその質問に答えるための科学的知識も十分でなかったため、意図と外れたことを話してしまい、結果として満足な返答ができませんでした。質問に対してきちんと自分の考えが述べられるかどうか、良い発表にするための大切な要素です。自分の研究内容をもっと良く理解しておくこと、予想される質問をもっと深く考えるなど、発表内容だけでなく質問に対する事前の準備をしっかりしておかなければならないと痛感しました。来年はいよいよ卒業研究の発表があります。今回の反省点を活かし、良い発表ができるようにします。(A.K.)

科学英語Ⅱを終えての感想文

今回の科学英語Ⅱの授業では、昨年夏季に行われた早期研究室体験実習におけるレポートを、毎週少しずつ論文形式で作成していき、最後はそれをポスターにまとめて発表した。毎週の講義では、論文の形式に沿ってタイトルから序章、方法、結果、考察などの草案を持ち寄り、クリスティーン先生と岩城先生の助言を中心に、クラスメイトと見せ合いながら推敲を繰り返した。この過程で、自分の言いたいことを独りよがりを書いてしまわぬよう、読み手の理解度に注意を払いつつ英語で説明していくことに、苦心しつつも自身の理解も深まっていくという興味深い経験をした。本番のポスター発表では、聞き手に理解してもらうことを第一に考え、聴衆の表情に注意を払いつつ説明することを心がけた。質疑応答では専門分野の先生から易しい質問を受けたのだが、そのような質問にも英語で返答することがどれほど大変なのかを痛感した。この授業科目での経験は、今後の研究者人生の入門段階として、本当に有意義であった。(S.M.)

科学英語Ⅱ 模擬国際会議ポスター発表感想

科学英語Ⅱでの模擬国際会議ポスター発表の経験は、大きな刺激になりました。今回の発表においての最も大きな課題は、英語を用いて自分の伝えたいことを表現しなければならないという点であり、また大勢の前で発表をするということは本当に緊張感の伴うものでありました。しかし振り返ると、これに取り組んだ時間や経験は、とても貴重なものであったように感じます。

発表の準備をするにあたり、私達はいくつかの課題に直面しました。まず、自分の行った実験についてしっかりと理解すること。その中で、聞き手に伝えたい要点を把握すること。自分の伝えたい内容が聞き手に伝わるよう、英語を用いて表現すること。より上手く伝わるように、内容のみならず話し方にも注意を配ること。そして、発表を5分間という定められた時間の中に収めること。これらはどれも、将来研究者として活動していく上で、また研究者に限らずとも、必要とされるスキルであると思います。今回ほど、これらのことに必死に向き合い試行錯誤し、そして他人の前で実践するという経験は、これまでありませんでしたので、このような機会を持てたことは本当に有意義であったと思います。

また、普段一緒に授業を受けている友人達と、準備の段階からアドバイスをし合ったり、実際に本番で発表を見たりするのは、とても刺激的でした。生命科学科は人数がそんなに多くない分、互いに切磋琢磨していけるという環境が、今回の授業では大きく生きていたのではないかと感じました。

発表に向けての授業は、プレゼンテーションというよりも論文の書き方に重点を置いたものでした。授業を受けていく中で、論文を書くことの想像以上の難しさを感じるようになりましたが、論文作成の世界に触れるという経験を持てたことは、私達の将来に大きく活かされていくと思います。担当のクリスティーン倉本先生と岩城先生の親身なご指導には本当に助けられました。

英語のプレゼンテーションにも論文の作成にも不慣れな私達にとっては、決して楽な経験ではありませんでしたし、反省点も残りました。しかしこの経験により、次に同じような機会があった際、今回よりも自信を持って取り組んでいけるのではないかと思います。(N.S.)

科学英語Ⅱの授業を受けて

今回の科学英語Ⅱの授業を受けて最初に感じたことは、英語でポスター発表なんてできる訳がないということでした。はっきり言って英語も得意ではないし、論文もほとんど読んだことがありませんでした。しかも、ポスター発表なんてしたことがなかったのでどういうポスターが見やすいのか、どのような感じに説明したらわかりやすく説明ができるのか等、わからない点がたくさんありました。しかし、指導教員のクリスティーンや岩城先生、また夏の早期研究室体験実習の時にお世話になった助教の先生のご協力により、なんとかポスターを仕上げることができました。

当日のポスター発表は事前に練習をしっかりとしていたので、特に問題なく終えることができました。しかし、その後の質疑応答では、聞かれることを想定して調べてはいたものの答えがわからなかった所を聞かれてしまい、自分の知識のなさを露見する形になってしまいとても悔しい思いをしました。また、わかる所でも自分の言いたいことを英語では半分も伝えられませんでした。

今回のポスター発表を経て、自分にはもっと英語力と知識が必要だということを改めて感じさせられました。今後もポスター発表をする機会もあると思うので、そのときには今回の経験を生かしてよりわかりやすいポスターを作り、十分な受け答えができるように努力をしていきたいと思っています。(S.A.)

科学英語Ⅱ 感想文

今回科学英語Ⅱの授業では、英語論文作成および模擬ポスター発表を行った。論文作成に関しては論文の書き方から学び、Introduction や Results など項目ごとに分けて、それぞれの項目ごとに担当教員の岩城先生、クリスティーン先生に添削をしていただいた。論文作成は思っていたよりはスムーズに行うことができた。ポスター発表は慣れない英語での発表で発音などが大変だと感じた。また英語での質疑応答も行われ、自分の英語力の無さを痛感した。

この科学英語Ⅱは生命科学科独自の授業であり、論文作成、ポスター発表を早くから体験できたのは非常に良かったと思う。また、この授業科目を履修したことは、英語の勉強を授業以外にも自ら行おうと思う良いきっかけとなった。(H.I.)

科学英語 II 模擬国際ポスター発表を終えて

今回の早期研究室体験の発表は、科学的研究内容・自主的な調査内容を英語で発表するものであり、それは私にとって初めての経験でした。単なる英語での発表という点では多くの方が中・高などで経験されているはと思いますが、今回は発表後に質疑応答の時間を含んでおり、事前に用意した英文を暗記するだけの無機質なものではなく、リアルタイムでの聴衆とのコミュニケーションを含む緊張感を伴うものでした。質疑応答の時間は5~10分ほどでそれほど長くはありませんが、当日質問される項目がすべて予想できるわけではないので、発表の準備段階で質疑応答に向けて一度終えた実験内容をより深く理解し、知識を広げることにつながりました。今回の発表は、単に英語で科学的内容を発表するというだけでなく、プレゼンテーションの実践的練習としても非常に良い経験になったと私は思っています。授業を見てくださった倉本クリスティーン先生には、発表当日までに文脈中の正しい英単語の発音を始め、聴衆が聞きやすいスピーチのペース、間の取り方、そして発表中の聴衆に対しての視線の向け方など、様々なプレゼンテーション技術についてご指導いただきました。ここで経験できたことは、非常に今後も有益だと思います。今回のみの単発に終わらぬよう、これ以降の機会にも十分に活かせるように励みたいと思っております。 T.O.